資料６

科学技術連携施策群（情報通信分野）の進捗報告
（平成２０年１１月～２１年３月）

平成２１年　３月１６日
内閣府(科学技術政策･イノベーション)
情　報　通　信　担　当

前々回の情報通信ＰＴ(平成２０年１１月１０日)に報告して以降の、情報通信分野において推進している以下の科学技術連携施策群の活動進捗を報告する。

- ユビキタスネットワーク　－電子タグ技術等の展開－
- 次世代ロボット　－共通プラットフォーム技術の確立－
- 情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発

● ユビキタスネットワーク　－電子タグ技術等の展開－

（１）モジュール活用カタログの完成と配布（内容は別添参照）

対象施策の重複チェックや相違･優位性の明確化を行うため整理してきた「モジュール※1」について、当該モジュールの研究開発者以外にもそのモジュールが使われるよう、関係府省（総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省）及び補完的課題実施者により「モジュールの動作例」、「モジュールの活用実績」等を一層わかりやすく記述し、『ユビキタスネットワークを形成する技術要素群－構築を支援するためのモジュール活用カタログ－』として完成させた。

このモジュール活用カタログは、ＣＤ-ＲＯＭにより、「情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発」シンポジウム、今月開催の情報処理学会全国大会、電子情報通信学会総合大会で無料配布している。

※１　当該研究開発「以外」の施策･事業等へも提供できるよう汎用化させた技術要素。

（２）補完的課題のフォローアップ

補完的課題「電子タグを利用した測位と安全･安心の確保」の平成２０年度終了にあたり、研究開発実施者が研究開発目標の達成状況を報告するとともに、実証実験した応用システムの将来の実現へ向け、今後の技術的課題等についてタスクフォース専門家と意見交換を実施した※2。

※２　連携施策群タスクフォース会合（平成２１年１月２０日）にて実施。

（３）最終とりまとめの作成

当連携施策群は平成２０年度をもって活動を終了するため、最終とりまとめ（フォローアップの結果）を作成。一次案を審議※3後、二次案の照会･修正を経て最終案を確認した※4。この最終とりまとめは次回の情報通信ＰＴで報告予定。

※３　連携施策群タスクフォース会合（平成２１年１月２０日）にて審議。

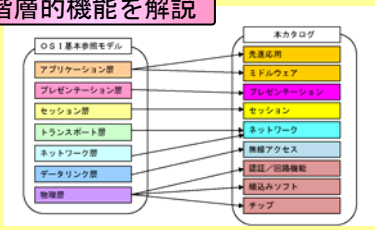
※４　連携施策群タスクフォース会合（平成２１年３月１１日）にて確認。

別 添

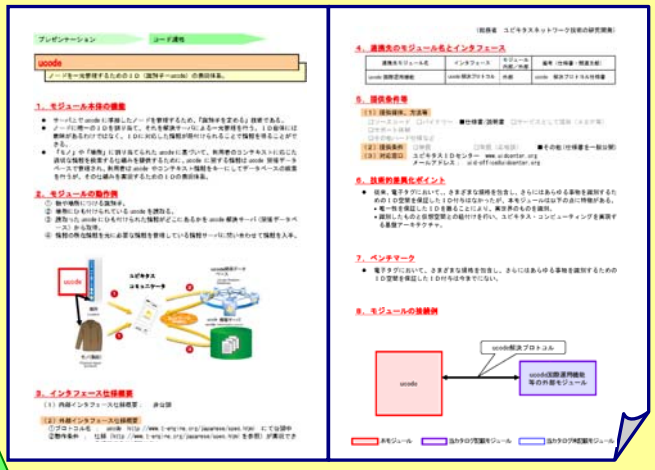
科学技術連携施策群「ユビキタスネットワーク」作成
『ユビキタスネットワークを形成する技術要素群 ー構築を支援するための モジュール活用カタログー』の概要

第１章　ユビキタスネットワークのためのモジュール活用カタログの概要

階層的機能を解説

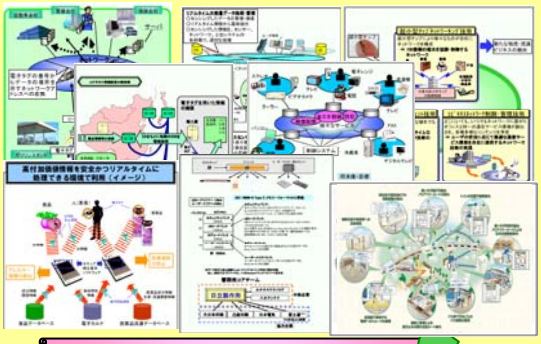


第２章　電子タグ技術における機能とモジュール



全モジュール（４７個）について、機能、システム構築の際の接続方法、提供条件･対応窓口等を紹介

第３章　モジュール活用実績

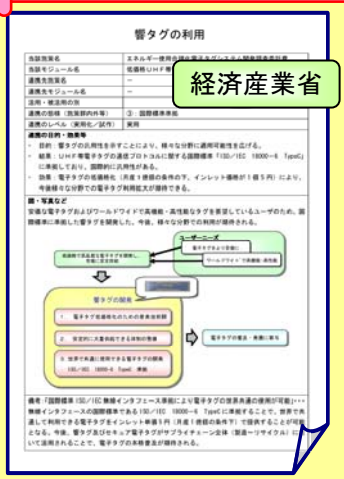


関係府省の施策の概要を紹介

総務省

文部科学省

関係府省のモジュール活用実績を紹介
（活用実績の一部を例示）



経済産業省

国土交通省

第４章　モジュール活用可能性

事務局作成による活用可能性も紹介

● 次世代ロボット　－共通プラットフォーム技術の確立－

（１）活動状況の情報発信に関する取組

前回報告（第８回情報通信ＰＴ；平成２０年１１月開催）以降、以下の講演会、シンポジウムを開催した。

■　次世代ロボット共通プラットフォーム講演会（平成２０年度第２回講演会）

〇 日時：平成２０年１２月５日（計測自動制御学会ＳＩ部門講演会と共催）

〇 場所：岐阜県県民文化ホール未来会館

〇 参加者数：６５名

■　環境プラットフォーム講演会・見学会（平成２０年度第３、４回講演会）

【第３回講演会・見学会】（関西環境情報構造化プラットフォーム）

〇 日時：平成２１年１月２８日

〇 場所：ホテル京阪ユニバーサルタワー（講演会）、ユニバーサル・シティウォーク大阪（見学会）

〇 参加者数：約４０名

【第４回講演会・見学会】（神奈川環境プラットフォーム）

〇 日時：平成２１年２月５日

〇 場所：パシフィコ横浜（講演会）、ハウスクエア横浜（見学会）

〇 参加者数：約８０名

■　平成２０年度シンポジウム

〇 日時：平成２１年２月２６日

〇 場所：アキバプラザ５階アキバホール

〇 参加者数：１８５名

なお、第３、４回講演会・見学会およびシンポジウムの様子は、Ｗｅｂマガジン「Ｒｏｂｏｔ　Ｗａｔｃｈ」(http://robot.watch.impress.co.jp/)でも取り上げられており、情報発信という点で見れば大いに成功を収めたと言える。

（２）本連携群の活動終了に伴うとりまとめの作成

本連携群の活動は今年度をもって終了することとなっており、その活動成果のとりまとめに着手した。次回の情報通信ＰＴに提出し報告予定。

（３）その他

本連携群の活動をフォローアップして「共通プラットフォーム技術」の普及と展開を図ると同時に、今後の「次世代ロボット」研究開発にかかる府省間連携等を推進する仕組みとして、前回（第９回；平成２０年１２月開催）の情報通信ＰＴの際に佐藤座長補佐より口頭にて説明があった「次世代ロボット推進委員会（仮称）」の活動準備を開始した。平成２０年１２月１９日に準備会を開催して佐藤座長補佐よりその趣旨や運営方針について説明し、準備会参加者間での意識の共有を図った。本件については、後の議題として取り上げる。

● 情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発

今年度の主な課題である、1)定期的なタスクフォース開催により各省施策及び補完的課題の連携を密にし、連携群としての課題把握、成果可視化の観点から共通技術化等の促進を図ること、2)活動状況の情報発信として年度末にシンポジウムを開催すること、に関して関連部門と連携して進めてきた。現在の状況は計画通りに進捗している。以下に、これまでの状況について報告する。

（１）対象施策の成果確認等（タスクフォース）：第 3 回（12/25）及び第 4 回（3/6）において、上記観点より各府省及び補完的課題に関する検討等を行った。

・ 総務省施策「電気情報通信サービスにおける情報信憑性検証技術等に関する研究開発」では、11 月中旬に中間評価を実施し良好な結果であった旨報告があり、順調に進捗している。
・ 文科省施策「革新的実行原理に基づく超高性能 DB 基盤ソフトウェアの開発」では、小規模システムでも性能向上が期待できることを示す等、中間目標である約 10 倍の性能向上（平成 21 年度）に向け着実に進捗している。
・ 経産省施策「情報大航海プロジェクト」では、共通技術の一つである PI（Place Identifier）基盤が ISO の標準化プロジェクトとして取り上げられることになった。また、共通技術の商用化事例も数多く出てきている。さらに、著作権等を含めた制度環境の整備も進んできている等、順調に進捗している。
・ 補完的課題施策「センサ情報の社会利用のためのコンテンツ化」（代表機関：京都大学）では、公共環境での実験場所を確定（京都：新風館）し、本格的な実証実験（H21 年 7 月開始予定）に向け順調に進捗している。

上記の通り、個別施策については計画通りに進捗している。今後は、最終年度に向け、各施策の効果的な連携施策について検討を進めていく予定である。

（２）活動状況の情報発信：平成 20 年度施策の事業活動および成果の情報発信として、以下に示すシンポジウムを開催した。

１）名称：情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群の活動
～情報爆発時代におけるソリューションと連携強化～　シンポジウム
２）日時：平成２１年２月４日（水）１１：００～１７：４０
３）場所：社会福祉法人全国社会福祉協議会　灘尾ホール
４）参加者数及び内訳：参加者数：256 名（官公庁関係 51 名、大学・法人・一般 43 名、企業 162 名）
５）総括：成果の可視化という観点から、１部デモ、２部シンポジウムという２部構成とした。アンケート結果では、デモでは約７割が、シンポジウムでは約８割が「参考になった、大変参考になった」との回答が得られ、本連携群の活動内容及び成果に関して十分に理解していただくことが出来た。さらに、デモ、シンポジウムを通して、本施策担当者ならびに関連する研究者間のコミュニケーションも促進することが出来た。

以上